

# 数学概论 第2回

---

2018 6/22



## 第二回内容と計画 (90分)

1-2: 位相群・等質空間

(1) 等質空間の定義

(2) 群と等質空間

(3) 位相群の定義

(4) 等質空間に作用する位相

前回や。に事

(1) 群作用とその軌道, 固定点, を定義.

(2) 可測空間への群の可測作用を定義.

(3) 可測な作用は測度全体のなす集合  
への作用を誘導する.

(4)  $\mathbb{R}^n$  上のルベーグ測度は  
群  $(\mathbb{R}^n, +)$  による平行移動作用で  
不変

今日やる事

(1) 群の等質空間を定義

(2) 部分群と等質空間の対応

(3) 位相群の定義

(4) 等質空間に定分子位相

(5) 等質空間が

ハウスドルフ  $\Leftrightarrow$  イソトピー関

### §3 等質空間と部分群

No.1

$G$ : 群,  $X$ : 集合 ( $X \neq \emptyset$ ) と可.

$G \curvearrowright X$ : 作用

(ie.  $\rho: G \rightarrow \mathcal{G}(X)$ : 群準同型)

Def 3.1:  $G$  の  $X$  上の作用  $\rho$  が

推移的 (transitive) であるとは,

以下  $\varepsilon$  を満たすこと:

$$\forall x, y \in X, \exists g \in G, g \cdot x = y.$$

問 3.1:  $G = \mathbb{R}^n$ ,  $X = \mathbb{R}^n$  とし, 作用  $G \curvearrowright X$  を

$$\rho(v)x := x + v \quad (v \in \mathbb{R}^n = G, x \in \mathbb{R}^n = X)$$

として定める. このとき  $\rho$  は推移的であることを示せ.

$G$  が  $X$  を  $e$  で推移的に作用させる

No. 2

$(X, e)$  を  $G$ -空間 (または単に  $X$ ) とする

$G$ : 群

$(X, e), (Y, \sigma)$ :  $G$ -空間 とする.

Def 3.2: 写像  $f: X \rightarrow Y$

$G$ -同値であるとは、以下を満足すること:

$$\forall g \in G, \forall x \in X, f(g \cdot x) = g \cdot f(x)$$

$$\begin{array}{ccc} X & \xrightarrow{f} & Y \\ e(g) \downarrow & \circlearrowleft & \downarrow \sigma(g) \\ X & \xrightarrow{f} & Y \end{array}$$

Def 3.3:  $X$  と  $Y$  が  $G$ -同型であるとは、  
以下を満足すること:

$\exists f: X \rightarrow Y$ : 全単射  $G$ -同値

$X$  と  $Y$  が  $G$ -同型であるということと

$X \underset{G}{\simeq} Y$  と書くことに可い。

“ $G$ -同型”は以下の意味で“同値関係”である。

問3.2:  $X, Y, Z$  は等質  $G$ -空間とする。

以下を示せ:

(1)  $X \underset{G}{\simeq} X$ .

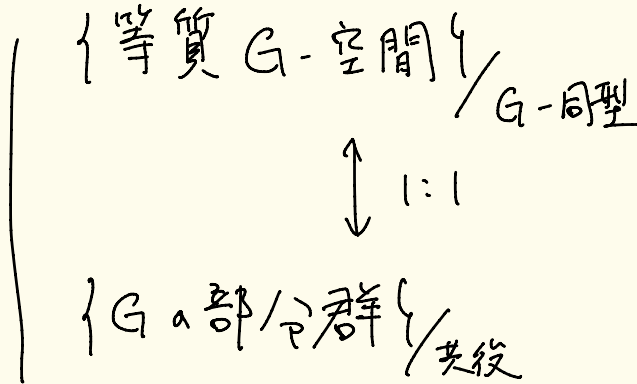
(2)  $X \underset{G}{\simeq} Y \Leftrightarrow Y \underset{G}{\simeq} X$

(3)  $X \underset{G}{\simeq} Y$  かつ  $Y \underset{G}{\simeq} Z \Rightarrow X \underset{G}{\simeq} Z$

Question: 群  $G$  を固定する.

| 等質  $G$ -空間 は  $G$ -同型を除いて  
どのくらいたくさんあるか?

Answer



これを詳しくみる。



$(X, \rho)$ : 等質  $G$ -空間 とす.

Def. 3.4: 各  $x \in X$  に対し

$$\left| \begin{array}{l} G^x := \{ g \in G \mid g \rho x = x \} \\ \text{を } G \text{ の } x \text{ における 1 元中心-部分群 とす.} \end{array} \right.$$

問 3.3:  $(X, \rho)$ : 等質  $G$  空間 とす.

以下を示す:

- $$\left| \begin{array}{l} (1) \forall x \in X, G^x \text{ は } G \text{ の 部分群} \\ (2) \forall x, y \in X, G^x \text{ と } G^y \text{ は } G \text{ 内で 共役} \end{array} \right.$$

問 3.4:  $X, Y$ : 等質  $G$ -空間,  $X \cong_G Y$  とす.

以下を示す:

$$\left| \forall x \in X, \forall y \in Y, G^x \text{ と } G^y \text{ は } G \text{ 内で 共役} \right.$$

# ② 部分群 から 等質空間

No. 6

$H$  を  $G$  の 部分群 とする.

$G$  における 右  $H$  剰余類 全体の 集合 を

$$G/H := \{ gH \subset G \mid g \in G \}$$

と書くことにする.

$G \overset{e}{\sim} G/H$  と 各  $g, g' \in G$  に 対して

$$\rho_e(g'H) := (gg')H$$

と して 定めると,  $(G/H, e)$  は 等質  $G$ -空間 と なる.

この 等質  $G$ -空間  $\varepsilon (G, H)$  の 定められた 等質  $G$ -空間 と なる.

問 3.5 : 上記 の 定められた  $\rho: G \rightarrow \mathcal{P}(G/H)$   
が well-defined に 定まる こと を 示せ.

問 3.6 :  $g \in G$  と する.

$G$  の  $gH \in G/H$  における 1-1-対応-部分群 は  
 $gHg^{-1}$  である こと を 示せ

Thm 3.5:  $G$ : 群 と可し.

(1)  $H_1, H_2$ :  $G$  の部分群 と可し.  
このとき 以下は同値

(i)  $H_1$  と  $H_2$  は  $G$  内で共役

(ii)  $G/H_1$  と  $G/H_2$  は  $G$ -同型

(2) 任意の 等質  $G$ -空間  $X$  と 任意の  $x \in X$  について

$$X \simeq_{G} G/G^x$$

問 3.7: 上記定理 を示せ.

Rem: 上記定理の意味は

{ 等質  $G$ -空間 }  $\iff$   $G$ -同型

$\iff$  {  $G$  の部分群 }  $\iff$  共役

に他ならない.

(しかし "等質  $G$ -空間" は 集合として定義できない  
ので注意が必要である.)

例 3.6:  $G = (\mathbb{R}^n, +)$  と可子.

$\{ \mathbb{R}^n \text{ の 部分群 } \} / \sim$   $\xleftrightarrow{1:1}$   $\{ \text{等質 } \mathbb{R}^n \text{ 空間 } \} / \sim$   
同型

$\{ 0 \} \longleftrightarrow \mathbb{R}^n$

$\mathbb{Z}^n \longleftrightarrow \mathbb{T}^n := (S^1)^n$

$\mathbb{R}^k \ (k \leq n) \longleftrightarrow \mathbb{R}^{n-k}$

$\mathbb{Q}^n \longleftrightarrow (\mathbb{R}/\mathbb{Q})^n$

Rem:

$\mathbb{R}^n$  は可換群 である

$H_1 \sim H_2 \Leftrightarrow H_1 = H_2$

( $H_1, H_2 : \mathbb{R}^n$  の部分群)

No 9

例 3.7 :  $G = O(n)$  と可.

$$\tau = \tau^{-1}$$

$$O(n) := \{ g \in M(n; \mathbb{R}) \mid g \cdot g = I_n \}$$

と可.

$\{ O(n) \text{ の 部分群 } \} \xleftrightarrow[\text{共役}]{\cong} \{ \text{等質 } O(n)\text{-空間} \} \xleftrightarrow[\text{同型}]{\cong} \{ O(n)\text{-同型} \}$

$$O(n-1) = \left\{ \begin{pmatrix} 1 & \\ & * \end{pmatrix} \in O(n) \right\} \leftrightarrow S^{n-1}$$

(n-1)-次元球面

$$O(k) \times O(n-k) = \left\{ \begin{pmatrix} * & \\ & * \end{pmatrix} \in O(n) \right\} \leftrightarrow G_{k,n}(\mathbb{R}^n)$$

$$\tau = \tau^{-1} \quad G_{k,n}(\mathbb{R}^n) := \{ k\text{-dim'l 部分空間 in } \mathbb{R}^n \}.$$

# §4 位相群とその等質空間

No.10

$G$ : 群,  $\mathcal{O}_G$ :  $G$  上の位相 と可也.

Def 4.1  $(G, \mathcal{O}_G)$  が位相群であるとは

以下を満足すること:

$$\left\{ \begin{array}{l} G \times G \rightarrow G, (g_1, g_2) \mapsto g_1 \cdot g_2 \\ G \rightarrow G, g \mapsto g^{-1} \end{array} \right.$$

が  $(G \times G, \langle \mathcal{O}_G \times \mathcal{O}_G \rangle)$  に関して連続  
 $(G, \mathcal{O}_G)$

$\tau = \tau^{-1}$ ,  $\langle \mathcal{O}_G \times \mathcal{O}_G \rangle$  が連続位相と可也.

例 4.2: 群  $(\mathbb{R}^n, +)$  は  $\mathbb{R}^n$  の標準的位相に  
| 関して位相群 とはし.

問 4.1: 上  $\varepsilon$  示せ.

例 4.3:  $O(n) := \{g \in M(n; \mathbb{R}) \mid {}^t g \cdot g = I_n\}$

| 上に  $M(n; \mathbb{R}) \simeq \mathbb{R}^{n^2}$  の標準的位相から  
誘導された相対位相  $\mathcal{O}_{O(n)}$  を考えたと  
|  $O(n)$  は  $\mathcal{O}_{O(n)}$  において位相群

問 4.2: 上  $\varepsilon$  示せ.

$G$  : 位相群 $(X, \rho)$  : 等質  $G$ -空間  $\left( \begin{array}{l} \text{i.e.} \\ X: \text{集合 } (X \neq \emptyset) \\ G \text{ と } X: \text{推移的} \end{array} \right)$ Question :  $X$  に位相  $\varepsilon$  定められるか.

[ 自然なものはないか? ]

Answer :  $x \in X$   $\varepsilon$  固定点と[  $X \cong_G G/G^x$  での  $G$  の位相の  
商位相  $\varepsilon$  定められるか? ]

これを詳しくみる.



各  $x \in X$  について, 全射写像  $\pi_x: G \rightarrow X$  を  
 $\pi_x: G \rightarrow X, g \mapsto g \cdot x$  と定める.

Thm. 4.4:

(1)  $X$  上の位相  $\mathcal{O}_X$  について, 以下は同値

(i)  $\forall x \in X, \pi_x: G \rightarrow X$  は連続開写像

(ii)  $\exists x \in X, \pi_x: G \rightarrow X$  は連続開写像

(2) 上記条件を満たす位相  $\mathcal{O}_X$  は一意

(3)  $x \in X$  を任意に固定 ( $\tau = \tau_x$ ),

$$\mathcal{O}_X := \{ U \subset X \mid \pi_x^{-1}(U) : \text{open in } G \}$$

は上記条件を満たす  $X$  上の位相  $\tau_x$  である.

問 4.3: 上記定理を示せ.

$G$  : 位相群

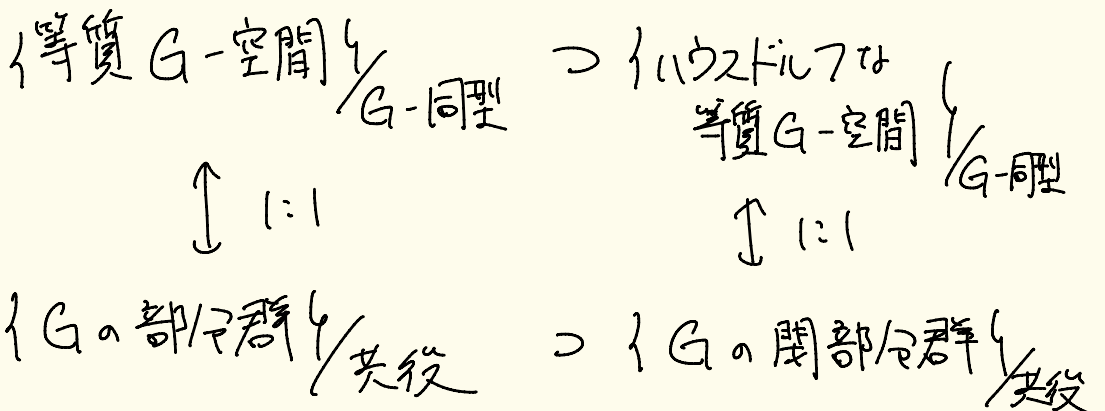
$X, Y$  : 等質  $G$ -空間

$\mathcal{O}_X, \mathcal{O}_Y$  : Thm. 4.4 で定められた  
 $X, Y$  の自然な位相

Prop. 4.5:

$X \underset{G}{\cong} Y$  かつ,  
 $(X, \mathcal{O}_X)$  と  $(Y, \mathcal{O}_Y)$  と同相

問 4.4 : 上の命題を示す.

$G$ : 位相群 $(X, \rho)$ : 等質  $G$ -空間 $\mathcal{O}_X$ : Thm. 4.4 で定められた位相.Question:  $(X, \mathcal{O}_X)$  はハウスドルフ?Answer: 一般には No.問 4.5:  $G$ : 位相群,  $H_1, H_2$ :  $G$  の 部分群 とし, $H_1, H_2$  は  $G$  内で 共役 と 可.
$$\left[ \begin{array}{l}
 \text{①} \\
 \text{②}
 \end{array} \right. \text{ ①} \text{ と } \text{②} \quad H_1: \text{閉 in } G \iff H_2: \text{閉 in } G \quad \text{を示せ.}$$

Thm 4.6:  $(X, \rho)$  について以下の4条件は同値:

(i)  $(X, \mathcal{O}_X)$  は  $T_1$ -空間

$$\left( \begin{array}{l} \text{i.e. } \forall x, y \in X, \\ \exists U : y \text{ の 開近傍 s.t.} \\ x \notin U \end{array} \right)$$

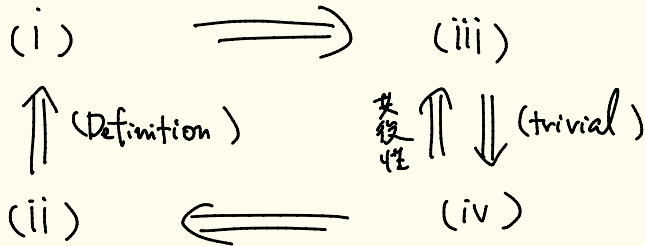
(ii)  $(X, \mathcal{O}_X)$  は ハウスドルフ空間

$$\left( \begin{array}{l} \text{i.e. } \forall x, y \in X, \\ \exists U_x : x \text{ の 開近傍} \\ \exists U_y : y \text{ の 開近傍 s.t.} \\ U_x \cap U_y = \emptyset \end{array} \right)$$

(iii)  $\forall x \in X$ ,  $G^x$  は 閉 in  $G$   
( $\gamma + 0t^0$ -閉)

(iv)  $\exists x \in X$ ,  $G^x$  は 閉 in  $G$

Thm 4.6 の証明の流石:



(i)  $\Rightarrow$  (iii) と (iv)  $\Rightarrow$  (ii) を示そう.

(i)  $\Rightarrow$  (iii) の証明

$\neg$ (iii) を仮定する.  $\neg$ (i) を示す.

①  $\neg$ (i) i.e.  $(X, \mathcal{O}_X)$  は  $T_1$  でない

i.e.  $\exists x, y \in X, \forall U: y \text{ が開近傍}$   
 $x \in U$

$\neg$ (iii) の仮定から " $G^x: \mathbb{A}^1$  と同型 in  $G$ "

とある  $x \in X$  がある.

$\overline{G^x} \supsetneq G^x$  ( $\tau = \tau \circ \tau$   $\overline{G^x}$  は  
 $G$  における  $G^x$  の閉包)

ii)  $\gamma \in \overline{G^x} \setminus G^x$  である。

(i)  $\forall U : \gamma$  の近傍,  $x \in U$

$\forall U : \gamma$  の近傍  $\varepsilon$  である。

$x \in \pi_x(\pi_x^{-1}(U))$  であるから

$$(\pi_x(\pi_x^{-1}(U)) \subset U \text{ である})$$

$\pi_x^{-1}(U)$  は  $\mathbb{R}$  in  $G$  である  $\gamma \in \pi_x^{-1}(U)$

したがって  $\pi_x^{-1}(U) \cap G^x \neq \emptyset$

$\gamma_0 \in \pi_x^{-1}(U) \cap G^x$  である  $\tau$  である。

$z \sim z'$ 

$$\begin{aligned} \pi_x(\pi_x^{-1}(U)) &\ni \pi_x(g_0) \quad (g_0 \in \pi_x^{-1}(U)) \\ &= x \quad (g_0 \in G^x) \end{aligned}$$

$z \sim z' \quad \neg (i) \text{ 的に示すことに.} \quad \square$

(iv)  $\Rightarrow$  (ii) の証明

Prop 4.7

位相空間  $Z$  上の同値関係  $\sim$

について、以下は同値

(i)  $Z/\sim$  は商位相についてハウスドルフ.

(ii)  $R := \{ (z_1, z_2) \in Z \times Z \mid z_1 \sim z_2 \}$   
は  $Z \times Z$  の連続位相に関して  
閉集合.

問 4.6: Prop. 4.7 を示せ.

(iv)  $\pi$  は固定可. (ii')  $\pi$  は示-可.

(ii) i.e.  $(X, \mathcal{O}_X)$  はハウスドルフ  
 $x \in X$   $\pi$  は固定可.

$\mathcal{O}_X$  は  $\pi_x: G \rightarrow X, g \mapsto g \cdot x$  による  
の商位相である (Thm. 4.4).

Prop. 4.7 より以下  $\pi$  は示-可

(iii)  $R := \{ (g_1, g_2) \mid g_1 \cdot x = g_2 \cdot x \}$   
 $\pi$  は閉 in  $G \times G$

いま  $\sigma: G \times G \rightarrow G \times G$   
 $(g, h) \mapsto (g, gh)$

は同相写像

問 4.7:  $\sigma: G \times G \rightarrow G \times G$  が  
 $\pi$  同相であることを示せ.



(iv) の級定子<sup>1)</sup>

$G \times G^x$  は閉 in  $G \times G$

特に  $\sigma(G \times G^x)$  は閉 in  $G \times G$ .

ここで  $\sigma(G \times G^x) = R$  とした。

問 4.8: 上の等号を示せ。  
L

よって  $R$  は閉 in  $G \times G$  □